

山田高光星聖地で軽快

甲子園練習、守備を確認

20日に開幕する第88回選抜高校野球大会に出場する八学光星と青森山田の選手たちが17日、兵庫県西宮市の甲子園球場で練習を行った。曇りつない快晴の下、両チームは聖地の雰囲気やグラウンドの感触を確かめながら、初戦突破に向け、決意を新たにしました。(兼平昌寛)

八学光星ナインは午前9時から練習を開始。打撃は「OK、OK」などと撃は行わず、シートノックや走者を置いた場面を想定した実戦形式の守備

練習を行った。選手たちは午後2時半にスタート。八学光星同様、打撃を行わず、守備練習に時

間を割いた。選手たちはシートノックでゴロやフライ、バントを処理したり、走者を置いた場面での動きを確認した。与えられた30分のうち20分で練習を終え、残りの時間でグラウンドを整備した。

兜森監督は「守りはチームの生命線。選手に硬さも見られたが、一通り確認できた」とし、グラウンド整備に時間をかけたことについては「次のチームに失礼のないようにした」と話した。

内山主将は「思ったより足が動かなかったの

ントなどに応じた守備隊形を確認した。仲井監督は練習後、「守りがほころぶと攻撃につながらないため、しっかりと守備を確認したい」と思った」と語った。奥村主将は「練習とはいえ、甲子園でプレーできてとても気持ち良かった。早く試合がしたい」と闘志をみせさせていた。一方、青森山田ナインは午後2時半にスタート。八学光星同様、打撃を行わず、守備練習に時

で、守備を鍛え、試合では全力でプレーできるようになりたい」と意気込みを語った。

和田悠弥投手(3年)



背番号10の控え投手。17日の甲子園練習で、憧れのマウンドの感触を確かめた。「緊張しなかった。とても投げやすかった」と振り返る。

光星

甲子園だより

勝利に貢献したい

ますますで押し投球が持ち味。昨年の東北大会では、2回戦の能代戦で完投勝利している。チームは大阪入りして以降、連日練習試合を重ねているが、自らの調子について「状態はいい」といい、登板のチャンスは十分にあり、「チームの勝利に貢献できる投球をしたい」と意気込む。(大阪府・泉ヶ丘東中出身、175センチ、73キロ、右投げ左打ち)